

## 山の歴史館

### 福沢桃介記念館

左側の山の歴史館は、元々1900年に御料局名古屋支庁の出張所として建てられたものです。当時この建物は、現在では再建された妻籠本陣の所在地である妻籠の目抜き通りにありました。1933年には、この建物は解体され、地元の住民に売却され、この住民が自分の住居として再建しましたが、1986年に道路整備事業による立ち退きの対象となったため、所有者が南木曾町に寄贈し、1990年にこの場所に博物館の別館として再建されました。

右側の福沢桃介記念館は、実業家、福沢桃介（1868年～1938年）の別荘でした。桃介は、木曾川流域の水力発電産業の草分けとなり、莫大な富を得て、いつの間にか「電力王」という愛称で呼ばれるようになりました。この家は、桃介が近くの読書と大井の2基の水力発電所の建設を指揮していた1919年に建てられました。

目立つ場所にあり、他のほとんどの現代風の建物よりも高く、当時では珍しく、また目新しかった西洋風のこの家は、桃介の富と権力を誇示していました。庭は当初道路の向こう側まで広がっており、現在道路が通っているあたりには池もありました。

庭（と、この家を支える杭の間）には、土石流で流されてきた大きな岩が点在しています。庭には、ここからほど近くにあり、桃介がその発電所の建築資材を運搬するために建築した桃介橋の一部が展示されています。また、1920年代半ばから1950年代半ばまで現地で稼働していた、狭軌の森林鉄道のディーゼル機関車も展示されています。

チケット1枚で両方の博物館に入館することができます。

大人：500円

中学生：250円

小学生以下：無料

休館日は毎週水曜日。冬季休館期間は12月1日から3月中旬までです。